

成果指標				
成果指標	人工数 ÷ 総申請件数 × 100 (目標申請件数を120件として目標を設定)			
指標設定の考え方	総申請件数が増加することで、人工数に対して1件当たり処理費用の低減が図られる。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	目標26年度
目標	0.42	0.42	0	0
実績	0.41	0.44	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	法定外の道路や水路は、市民が常に利用するものであり、生活に密接に関わっている。市民の利便性の確保及び生活環境の向上を図るため、法定外公共物の適切な維持管理に努める必要がある。また、近年過疎化や高齢化等により地域での管理が見込めない道水路も増加傾向にあるため、的確に対応する必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	3	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	4	
		施策への貢献度	4	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	市街化区域内における生活道路、生活排水施設の維持管理、維持修繕を基本としている。近年、農耕地が宅地化されているなか、生活環境の基本となる道路、排水施設整備を必要とする地域が益々、増加している。そのことから、今後は維持管理に要する経費がかさんでくるものとする。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題